

文部科学省

「各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業

(学びの機会充実ネットワーク)」

令和6年度 成果報告書

(名古屋市教育委員会)

1. 事業概要

1.1. 本事業に取り組む課題と目的

これまで名古屋市立高校では、普通科での学びの質や深まりを重視した学習・指導方法の検討や専門学科の充実、グローバル化への対応など、学びのあり方の改革に努めてきたところであるが、今後、本格的な人口減少社会の到来やグローバル化・デジタル化の進展など、より複雑化していく社会環境の中で、生徒が自分の興味・関心を大事にしながら主体的に自らの人生を生きていくために、さらに学びの機会・選択肢を広げていくことが必要となる。その実現にあたり、本市の教育の中期計画である「名古屋市教育振興基本計画」においても、「学校の枠を越えた学び」を掲げ、取り組みの推進に努めているが、学校間の連携を促進するネットワーク環境を構築し、遠隔教育を導入した取り組みとすることで、多様なニーズへの対応や生徒支援、STEAM人材の育成、理数教育の充実等につながる、より高い効果を目指す。

1.2. 本事業を通して明らかにしたい事項

(1) 子どもたちの学びの機会・選択肢の拡大の効果

子どもたちが目指す職業や人生のために必要な学びを得ようとする場合に、例えば普通科の生徒が工業系の知識やスキルを合わせて習得したい、定時制の生徒がより深く数学を探究したいなど、自校のカリキュラムのみでは学びきれない内容を学びたいとのニーズが存在する。本取組による遠隔授業の効果的な実施により、そのようなニーズに応え、学びの補完・充実を図ることができるか、授業の手法や環境整備等の検証を行いたい。

(2) 市立高校全体の教育の質の向上

各学校においては創意工夫をしながら自校の教育を推進しているが、一定の科目において専門的に指導が行える教員に限られるなど、各校単体では人的資源・教育内容の充実に限界がある状況も存在している。学校の枠を越えた学びの推進により、生徒同士の交流や学習機会の拡大のほかに、学校間の情報共有や市全体で教育を提供する意識の醸成など、市全体の教育の質の向上について検証を行いたい。

1.3. ロードマップ

令和6年度	○オープン夏季講座の試行実施 【学校の枠を越えた学び・遠隔授業実施の課題研究】 単位取得にはつながらないが、夏季講座という短期のプログラムで多様な講座を準備し、生徒が参加しやすい環境として、他校の授業を学ぶ意欲やニーズ、実施方法の検証を行う。
令和7年度	○中央高等学校における通年授業での学校の枠を越えた学びの実施 【学校の枠を越えた学び・遠隔授業の実施方法の具体化】 ・配信校と受信校の連携の具体的な手法の検討 ・教科や指導内容に応じた遠隔授業の手法の検討 ・オンデマンドを活用した授業内容の充実の手法の検討 ○オープン夏季講座の継続実施 【生徒の興味・関心に応じた学びの選択肢の拡大】 開講する講座数・内容の充実、参加生徒数の増加を図る
令和8年度	○中央高等学校以外の構成校における通年授業での学校の枠を越えた学びの実施 【学校の枠を越えた学び・遠隔授業の実施の拡大・促進】 ・カリキュラムの異なる学校間における遠隔授業の最適な実施方法の検討 ・各学校の特色を生かした持続可能な仕組みづくり ○オープン夏季講座の継続実施 夏季以外の期間や常設のコンテンツ等、制度の充実を検討
目標	○市立高校全体で連携し、遠隔授業やコンテンツを相互に配信・受信できる環境を整備 ○生徒の興味・関心に応じた他校の授業を選択し、単位を修得

2. 遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組

2.1. 調査計画

○オープン夏季講座の試行実施及び効果検証

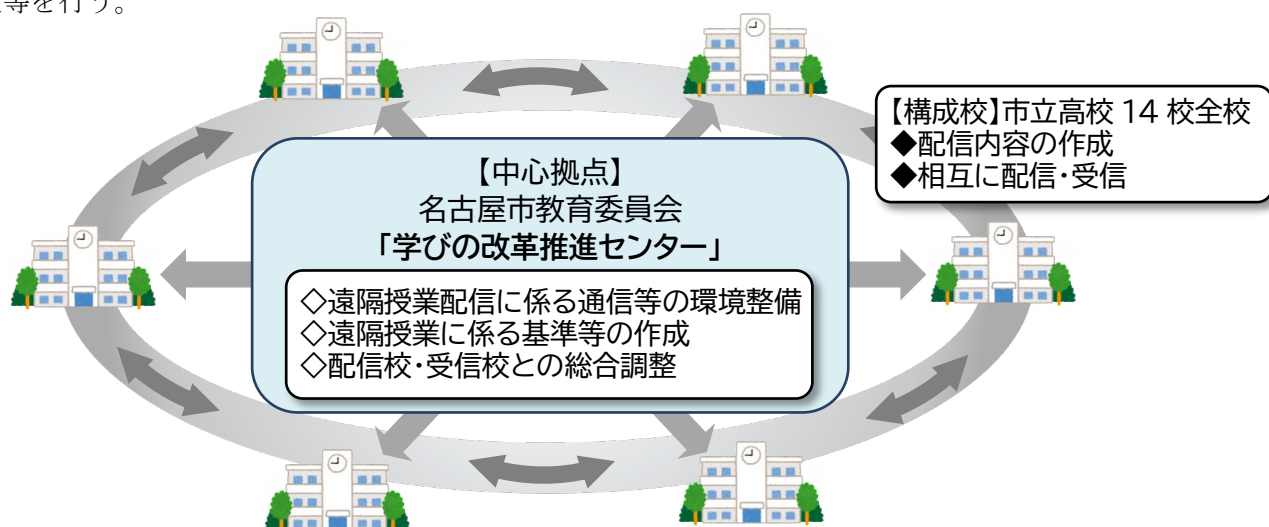
- ・選択可能な他校の講座として、①対面による授業（16講座）、②同時双方向のオンラインによる授業（2講座）、③オンデマンドによるコンテンツ（4講座）を設定し、それぞれの実施方法や効果を検証
- ・実施後にアンケート調査を実施し、生徒のニーズや今後の課題を分析

○受信体制の検証

- ・今後のネットワーク環境の整備や遠隔教育の実施に向け、受信側の機器や実施体制を確認

2.2. 実施体制

市立高校全体でネットワークを構成し、相互に配信・受信する体制を構築し、どの学校の生徒でも興味・関心やニーズに応じた授業を選択し学べる環境を整える。教育委員会「学びの改革推進センター」が配信に関するネットワーク等の環境整備及び学校間連携の総合調整を行い、各学校は配信する授業の内容の作成や生徒のニーズ把握等を行う。



※令和6年度は、各学校で使用する指導用タブレット、生徒用に配布しているタブレットを活用し、Microsoft Teams 等、既存のコンテンツを利用して実施。令和7年度からは遠隔教育用のシステムを構築し実施する。

2.3. 取組概要

遠隔授業に係る取組		通信教育に係る取組
①オープン夏季講座	②通常の授業に係る取組	
～5月 講座実施の検討、学校調整 6月 生徒向け周知・受講募集 7～8月 オープン夏季講座実施 9月～ アンケート調査、効果検証	8月～ 7年度以降の取組について 中央高校と調整開始 9月 中央高校生徒の意識調査 10月～ 中央高校と実施方法の調整、 配信協力校の検討・調整 2月 受信体制の確認（中央高校）	～5月 オープン夏季講座 実施の検討 6月 オープン夏季講座 生徒募集 7～8月 オープン夏季講座 実施（オンデマンド コンテンツの配信）

2.3.1. 遠隔授業実施表

※適宜、行の高さ及び行数を調整すること。

中心拠点	受信校	教科名	科目	教育課程 (※1)	開設 学年	遠隔授業実施 理由 (※2)	受信側の配置 体制(※3)	遠隔授業 実施回数/ 全授業回 数 (※4)
教育委員会	菊里高校	数学 (向陽高校 配信)	数学Ⅰ 数学A	課程外 (夏季講 座)	1年	教科科目充実型	生徒のタブレ ットで受講	5
教育委員会	菊里高校	数学 (向陽高校 配信)	数学Ⅰ 数学A	課程外 (夏季講 座)	3年	教科科目充実型	生徒のタブレ ットで受講	5
教育委員会	桜台高校	数学 (向陽高校 配信)	数学Ⅰ 数学A	課程外 (夏季講 座)	1年	教科科目充実型	生徒のタブレ ットで受講	5
教育委員会	桜台高校	数学 (向陽高校 配信)	数学Ⅰ 数学A	課程外 (夏季講 座)	3年	教科科目充実型	生徒のタブレ ットで受講	5
教育委員会	緑高校	数学 (向陽高校 配信)	数学Ⅰ 数学A	課程外 (夏季講 座)	1年	教科科目充実型	生徒のタブレ ットで受講	5
教育委員会	山田高校	数学 (向陽高校 配信)	数学Ⅰ 数学A	課程外 (夏季講 座)	1年	教科科目充実型	生徒のタブレ ットで受講	5
教育委員会	名東高校	数学 (向陽高校 配信)	数学Ⅰ 数学A	課程外 (夏季講 座)	3年	教科科目充実型	生徒のタブレ ットで受講	5
教育委員会	中央高校	数学 (向陽高校 配信)	数学Ⅰ 数学A	課程外 (夏季講 座)	1年	教科科目充実型	生徒のタブレ ットで受講	5
教育委員会	中央高校	数学 (向陽高校 配信)	数学Ⅰ 数学A	課程外 (夏季講 座)	3年	教科科目充実型	生徒のタブレ ットで受講	5

※1 教育課程外で遠隔授業を行った場合、実施状況（夏期講座・補習等）を記入すること。

※2 学習機会保障型の場合、生徒が授業を受けた場所も記載すること。

※3 巡回型を実施した場合、受信側の配置体制欄にその旨も付記すること。

※4 教育課程外の実施の場合、総実施回数のみ記載すること。

2.4. 取組内容

他校の講座を受講可能なオープン夏季講座を開催し、オンライン配信を実施（教育課程外の実施）

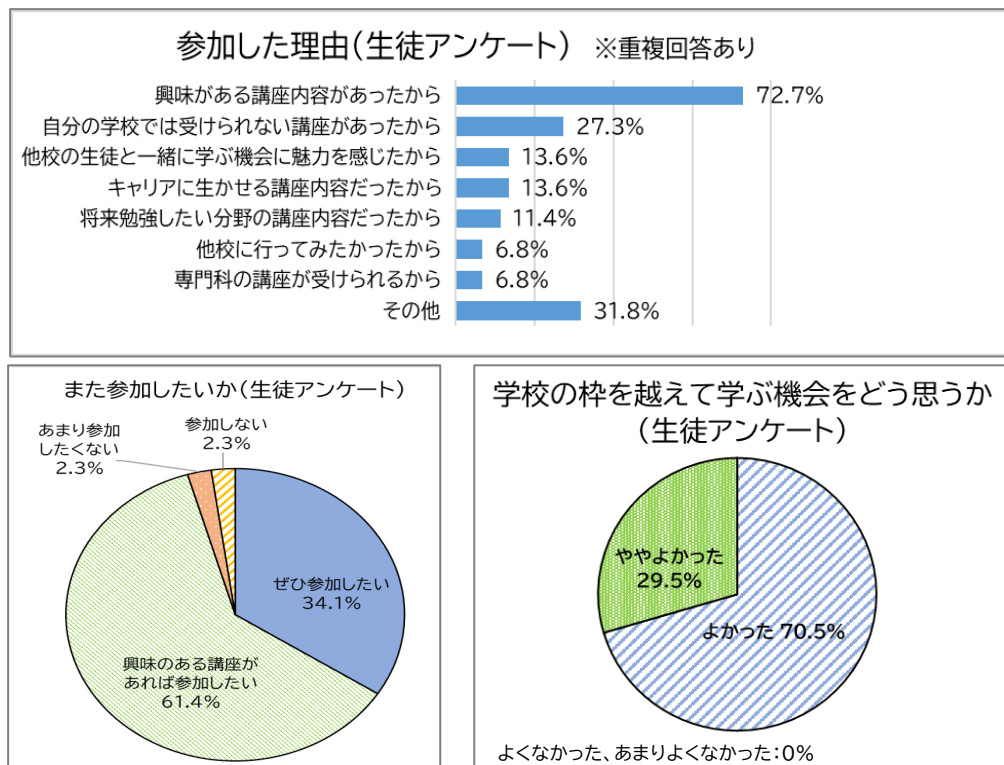
- ・教育委員会（中心拠点）が実施講座・実施方法等を各学校の意向を確認しながら調整し、全体の運用管理
- ・Microsoft Teamsにより、講座内容や受講準備について、担当教諭から受講生へ事前連絡
- ・講座当日は生徒自身が接続。学びの場所は自宅でも学校でも受信可
- ・教育委員会から、実施状況の把握のため指導主事も参加
- ・アンケート調査を実施し、分析と検証結果を次年度以降の実施に反映

2.5. 考察

オープン夏季講座の実施結果からの考察

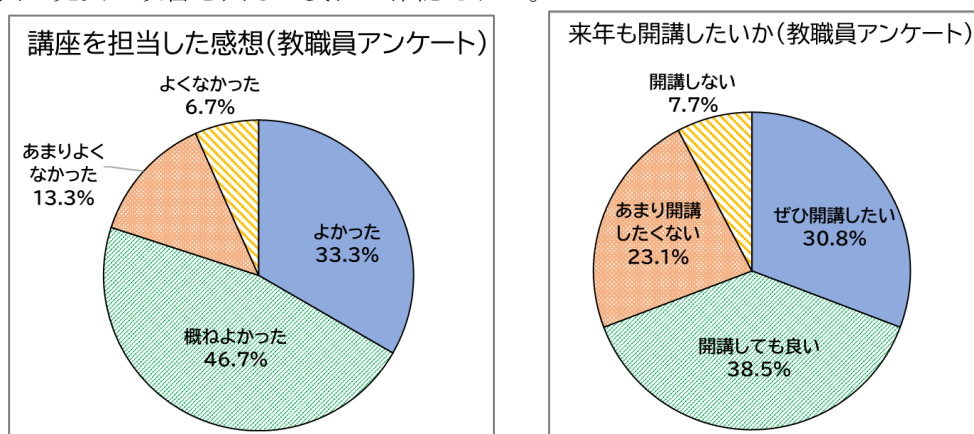
(1) 子どもたちの学びの機会・選択肢の拡大の効果

・受講した生徒のアンケート結果からは、「自分の興味のある講座だから」「自分の学校にはない講座だから」といった積極的な理由による受講が多く見られ、学校の枠を越えて学ぶ機会に対する考え、再度の参加の意欲いずれも肯定的な意見がほとんどを占めていたことから、学校の枠を越えた学びの機会へのニーズは高いことが確認できた。



・今回の夏季講座では、オンラインまたはオンデマンドの講座は全22講座中6講座であったが、受講人数は全体の約半数であり、遠隔授業に対する需要の高さが見られた。今後、学校の枠を越えた学びのさらなる充実には、遠隔授業に関する環境整備が必要であると考察される。

・講座を担当した教員からは、概ね前向きな回答を得たが、生徒と比べ課題意識を持った者も一定数見られ、取り組みの周知不足を感じる意見やしっかりとシステム構築を求める意見があった。取り組みの実施に伴う環境整備や運用面で充実・改善を図る必要性が確認された。



・教育委員会が総合調整機能を担い、生徒への募集や実施講座の調整、全体の運用管理を行う体制は、学校の負担が軽減される点や開講・配信する講座の検討に集中できる点で適切であるとの意見が多く見られた。

(2) 市立高校全体の教育の質の向上

- ・教育委員会が中心拠点として総合調整の役割を果たし、市立高校全体に向けて周知や調整を図ったことで、各校単位の取り組みではなく、市全体で生徒の学びの機会を拡大していくという機運醸成が図られた。初年度の試行的な取り組みでもあり、十分な準備期間のない中で実施したため、今後、実施規模の拡大や内容の充実を行うことで、さらなる効果が期待される。

3. 通信教育の実施やその運営体制に関する取組

3.1. 調査計画

○オープン夏季講座の試行実施及び効果検証

- ・選択可能な他校の講座として、オンデマンドによるコンテンツを設定し、生徒のニーズや実施方法、効果を検証
- ・今後、夏季講座での実施拡大や夏季講座以外での授業補助・自主学習等での活用が可能か検討するにあたっての参考とする。

3.2. 実施体制

令和6年度は、各学校で使用する指導用タブレット、生徒用に配布しているタブレットを活用し、Microsoft Teams等、既存のコンテンツを利用して実施。令和7年度からは遠隔教育用のシステムを構築し実施する。

3.3. 取組概要

他校の講座を受講可能なオープン夏季講座を開催し、オンデマンドコンテンツによる講座を実施（教育課程外の取り組み）

3.3.1. 通信教育実施表

※適宜、行の高さ及び行数を調整すること。

中心拠点 (※1)	受信校	教科名	科目	教育課程 (※2)	開設 学年	通信教育実施 理由
教育委員会	菊里高校	地理歴史（向陽 高校配信）	地理	課程外 （夏季講座）	指定 なし	教科科目充実型
教育委員会	菊里高校	理科（向陽高校 配信）	化学	課程外 （夏季講座）	3年	教科科目充実型
教育委員会	菊里高校	外国語（名東高 校配信）	英語	課程外 （夏季講座）	指定 なし	教科科目充実型
教育委員会	向陽高校	総合的な探究の 時間（向陽高校 配信）		課程外 （夏季講座）	指定 なし	教科科目充実型
教育委員会	向陽高校	地理歴史（向陽 高校配信）	地理	課程外 （夏季講座）	指定 なし	教科科目充実型
教育委員会	向陽高校	理科（向陽高校 配信）	化学	課程外 （夏季講座）	3年	教科科目充実型
教育委員会	向陽高校	外国語（名東高 校配信）	英語	課程外 （夏季講座）	指定 なし	教科科目充実型

教育委員会	桜台高校	地理歴史（向陽高校配信）	地理	課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	桜台高校	理科（向陽高校配信）	化学	課程外（夏季講座）	3年	教科科目充実型
教育委員会	桜台高校	外国語（名東高校配信）	英語	課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	北高校	総合的な探究の時間（向陽高校配信）		課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	北高校	地理歴史（向陽高校配信）	地理	課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	緑高校	総合的な探究の時間（向陽高校配信）		課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	緑高校	地理歴史（向陽高校配信）	地理	課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	緑高校	外国語（名東高校配信）	英語	課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	名東高校	総合的な探究の時間（向陽高校配信）		課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	名東高校	地理歴史（向陽高校配信）	地理	課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	名東高校	理科（向陽高校配信）	化学	課程外（夏季講座）	3年	教科科目充実型
教育委員会	名東高校	外国語（名東高校配信）	英語	課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	西陵高校	外国語（名東高校配信）	英語	課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	工芸高校	地理歴史（向陽高校配信）	地理	課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	中央高校	総合的な探究の時間（向陽高校配信）		課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型
教育委員会	中央高校	外国語（名東高校配信）	英語	課程外（夏季講座）	指定なし	教科科目充実型

※1 自校で通信教育を実施した場合、中心拠点欄を空欄とし、受信校欄に実施校を記載すること。

その際、括弧で（自校）と付記すること。

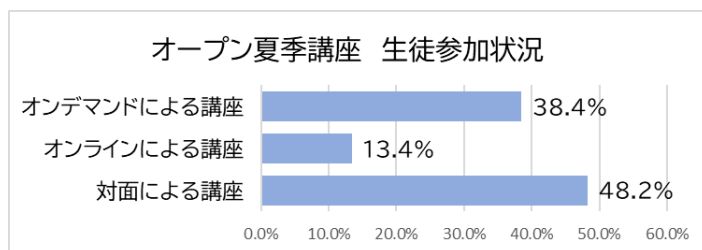
※2 教育課程外で通信教育を行った場合、実施状況（夏期講座・補習等）を記入すること。

3.4. 取組内容

- ・教育委員会（中心拠点）が実施講座・実施方法等を各学校の意向を確認しながら調整し、全体の運用管理
- ・Microsoft Teamsにより、講座内容や受講準備について、担当教諭から受講生へ事前連絡
- ・講座当日は生徒自身が接続。学びの場所は自宅でも学校でも受信可
- ・教育委員会から、実施状況の把握のため指導主事も参加
- ・アンケート調査を実施し、分析と検証結果を次年度以降の実施に反映

3.5. 考察

・オンデマンドの講座は全22講座中4講座と講座数は少なかったが、生徒の参加人数は多く、ニーズの高さは確認された。



・オンデマンドによる授業配信については大きな問題もなく実施することができたが、配信したものを1回視聴するだけで完結しており、実施前後のフォローなど、学習の質を確保するための工夫を今後、充実させる必要がある。

・今回は Microsoft Teams による配信・受信を実施し、講座内容や受講準備については配信担当教諭と受講生の間でのやり取りとなっていたが、受信の方法が分からないという生徒もあり、申請や操作が分かりやすく学習状況等も確認できるようなシステムを構築するなど、学習環境を整備する必要性を感じた。

4. まとめ

(1) 子どもたちの学びの機会・選択肢の拡大の効果について

子どもたちの学びの機会の拡大のため、本市において進めている「学校の枠を越えた学び」の取り組みは、これまで、個々の学校間連携等で一定の効果を得ていたが、今後、さらに効果を高めるためには、各学校レベルの連携に加えて、市全体で生徒のニーズを踏まえた学びの場を構築する必要がある。

令和6年度に試行実施したオープン夏季講座においては、対面方式、オンライン方式、オンデマンド方式それぞれのメリットを感じたが、生徒のニーズや実施状況を見ると、取り組みを充実させていくには遠隔授業の適切な活用が重要であると感じた。

教育委員会が中心拠点となり、各学校間で相互に配信・受信を行いながら学ぶ体制の総合調整を行う仕組みは、本市の目指す「都市型」「教科・科目充実型」の取り組みに適した形であると確認できたため、この形をベースとして、遠隔授業の実施方法や整備すべきネットワーク環境、配信・受信体制等をさらに検証し、機能の充実を図りたい。

(2) 市立高校全体の教育の質の向上

市全体の取り組みとして「学校の枠を越えた学び」を推進し、各学校へその趣旨を周知することで、各学校においても他校と連携し、全体で子どもの学びを保障していくという機運の醸成が図られた。今後、オープン夏季講座の規模拡大、夏季以外の実施、教育課程内における取り組みなど、事業の幅を広げていくことで、さらにこの機運が高まることが期待される。

また、今回実施した夏季講座では、自校で選択できない講座だから受講したという生徒のニーズも見られ、1校だけでは実現できないことが実施可能となり、生徒の選択肢を全体で補完して拡大できるため、学校間の情報共有を進めながら、実効性を高めていく。